

水見市内遺跡発掘調査概報Ⅲ

稲積天坂北遺跡

鞍川 D 遺跡

柳田遺跡

松田江北遺跡

2013年3月

水見市教育委員会

序

東に富山湾を隔てた靈峰立山を仰ぐ氷見市は、古くから海の幸、山の幸に恵まれ、人々の生活の場として、数多くの文化遺産を生み育んできました。これら、郷土に残る文化財は先祖より受け継がれてきたものであり、私たちはあらためてその歴史的、文化的価値を再認識しながら、末永く子孫に引き継いでゆかねばなりません。

本書で報告するのは、平成24年度に氷見市教育委員会が実施した試掘調査の概要です。

調査対象となった4つの遺跡のうち、鞍川D遺跡では中世の遺物が出土したほか、土坑や溝などの遺構が確認されました。調査区の近辺では、平成15年に道路建設に先立つ本発掘調査を実施しており、鎌倉時代の井戸跡や、井戸側に転用された丸木舟が見つかっています。今回確認した遺物や遺構もそれらと一連のものと考えられます。現在、遺跡の保護対策について関係者との協議を継続しているところです。

また、本発掘調査には至らなかったその他3つの遺跡についても、今回の試掘調査の成果は、今後の遺跡保護や開発行為にとって大きな蓄積となるものです。その成果が今後の文化財保護の一助となるとともに、地域の歴史への关心、理解につながることを願っております。

今回の試掘調査にあたりましては、氷見市建設農林部建設課のほか、関係機関の皆様に多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

氷見市教育委員会
教育長 前辻 秋男

例　　言

- 1 本書は、平成 24 年度に富山県氷見市内において実施した稲積天坂北遺跡・鞍川 D 遺跡・柳田遺跡・松田江北遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 調査は、市内で計画されている開発行為に伴い、氷見市教育委員会が実施した。
- 3 調査費用は、国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
- 4 調査期間は、以下のとおりである。

稲積天坂北遺跡 平成 24 年 9 月 26 日（実働 1 日）
鞍川 D 遺跡 平成 24 年 9 月 27 日（実働 1 日）
柳田遺跡 平成 24 年 10 月 31 日より 11 月 1 日（実働 2 日）
松田江北遺跡 平成 24 年 12 月 5 日（実働 1 日）

- 5 調査事務局は、氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課に置き、副主幹大野 究、主査天坂 正、主任学芸員廣瀬直樹が調査事務を担当し、課長坂本研資が統括した。
- 6 調査および本書の執筆・編集・製図・トレスは、廣瀬が担当した。また遺物の実測は、廣瀬が中心となり、整理作業員三矢恵京が行った。
- 7 発掘作業員の派遣は社団法人富山県シルバー人材センター連合会に委託し、氷見市シルバー人材センターから派遣を受けた。調査に参加した作業員は次のとおりである。

上野節子、浦 勇昇、遠藤幸雄、細野光作、藏 利雄、清水不二雄、瀬戸国男、谷瀬政次、向 修誠、屋敷幸子、山下 異（以上、氷見市シルバー人材センター）

- 8 鞍川 D 遺跡の試掘調査にあたっては、開発者である吉田道路株式会社より、重機およびオペレーターの提供を受けた。
- 9 出土遺物と調査に関わる資料は、氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課が保管している。
- 10 遺跡略号は以下のとおりである。

稲積天坂北遺跡：INASK 鞍川 D 遺跡：KRKD 柳田遺跡：YD 松田江北遺跡：MDEK

- 11 調査・本書作成にあたり、下記の機関から多大なご教示・ご協力を得た。記して感謝申し上げる（順不同、敬称略）。

富山県教育委員会生涯学習・文化財室 富山県埋蔵文化財センター 氷見市立博物館
氷見市建設農林部建設課 東工業株式会社 株式会社サクラテクノ 吉田道路株式会社

目 次

第1章：序説	
第1節：氷見市の位置と環境	1
第2節：平成24年度事業の概要	1
第2章：個人住宅建設に先立つ稲積天坂北遺跡試掘調査	
第1節：調査対象地	3
(1) 地理的環境	3
(2) 遺跡の概要	3
第2節：調査の概要	3
第3節：調査結果	4
第3章：ドラッグストア建設に先立つ鞍川D遺跡試掘調査	
第1節：調査対象地	5
(1) 地理的環境	5
(2) 遺跡の概要	5
第2節：調査の概要	5
第3節：調査結果	7
(1) 調査の状況	7
(2) 出土遺物	7
(3) まとめ	9
第4章：都市計画道路水見伏木線建設に先立つ柳田遺跡試掘調査	
第1節：調査対象地	10
(1) 地理的環境	10
(2) 遺跡の概要	10
第2節：調査の概要	10
第3節：調査結果	12
第5章：分譲宅地造成工事に先立つ松田江北遺跡試掘調査	
第1節：調査対象地	14
(1) 地理的環境	14
(2) 遺跡の概要	14
第2節：調査の概要	14
第3節：調査結果	14
引用・参考文献	16
報告書抄録	

表 目 次

第1表 稲積天坂北遺跡 基本層序	4
第2表 鞍川D遺跡 基本層序	7
第3表 柳田遺跡 基本層序	13
第4表 松田江北遺跡 基本層序	15

挿 図 目 次

第 1 図	調査対象位置図	2
第 2 図	稲積天坂北遺跡位置図	3
第 3 図	稲積天坂北遺跡試掘トレンチ位置図	4
第 4 図	稲積天坂北遺跡遺物実測図	4
第 5 図	鞍川 D 遺跡と周辺の遺跡	6
第 6 図	鞍川 D 遺跡試掘トレンチ位置図	8
第 7 図	鞍川 D 遺跡遺物実測図	9
第 8 図	柳田遺跡位置図	10
第 9 図	柳田遺跡調査対象位置図	11
第 10 図	柳田遺跡試掘トレンチ位置図	13
第 11 図	松田江北遺跡位置図	14
第 12 図	松田江北遺跡試掘トレンチ位置図	15
写真 1	水見高等学校歴史クラブの発掘調査（昭和 32 年 8 月）	13
写真 2	出土器（昭和 32 年 8 月 2 日）	13

写 真 図 版 目 次

図版 1	空中写真（1）	1. 調査区近景（南東から）
図版 2	空中写真（2）	2. T1 完掘状況
図版 3	稲積天坂北遺跡試掘調査（1） 1. 調査区近景（西から） 2. T1 完掘状況 3. T1 土層断面	3. T1 土層断面 図版 10 柳田遺跡試掘調査（2） 1. T3 土層断面 2. T4 深掘り土層断面 3. T4 溝状遺構検出状況
図版 4	稲積天坂北遺跡試掘調査（2） 1. T2 完掘状況 2. T2 土層断面 3. 作業風景	図版 11 柳田遺跡試掘調査（3） 1. T6 土層断面 2. 作業風景（1） 3. 作業風景（2）
図版 5	鞍川 D 遺跡試掘調査（1） 1. 調査区遠景（西から） 2. 調査区遠景（東から）	図版 12 松田江北遺跡試掘調査（1） 1. 調査区近景（北から）
図版 6	鞍川 D 遺跡試掘調査（2） 1. 調査区近景（南東から） 2. T1 土層断面 3. T3 完掘状況	2. T1 完掘状況 3. T1 土層断面 図版 13 松田江北遺跡試掘調査（2） 1. T2 完掘状況 2. T3 完掘状況 3. 作業風景
図版 7	鞍川 D 遺跡試掘調査（3） 1. T3 遺構検出状況 2. T6 遺構検出状況 3. T7 遺構検出状況	図版 14 遺物写真（1） 1. 鞍川 D 遺跡（1） 2. 鞍川 D 遺跡（2）
図版 8	鞍川 D 遺跡試掘調査（4） 1. T9 完掘状況 2. T11 完掘状況 3. 作業風景	図版 15 遺物写真（2） 1. 稲積天坂北遺跡 2. 柳田遺跡
図版 9	柳田遺跡試掘調査（1）	

第1章 序 説

第1節 氷見市の位置と環境（第1図）

氷見市は、富山県の西北部に位置し、能登半島の基部東側にある。昭和27年の市制施行から昭和29年までに旧太田村を除く氷見郡1町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230km²、人口は約5万2千人である。

市域は、北・西・南の三方が標高300～500mの丘陵に取り囲まれ、これら丘陵から派生する小丘陵により、西条・十三谷・上庄谷・八代谷・余川谷・灘浦の6つの区域に分けられる。また市の東側は、約20kmの海岸線をもつて富山湾に面している。市の北半部は、上庄川・余川川・阿尾川・宇波川・下田川といった小河川とその支流からなる谷地形であり、上庄川流域以外はまとまった平野が少ない。一方、市の南半部は、主として布勢水海（十二町潟）が堆積してできた平野と、その砂嘴として発達した砂丘からなる（氷見市1999・2000）。

第2節 平成24年度事業の概要

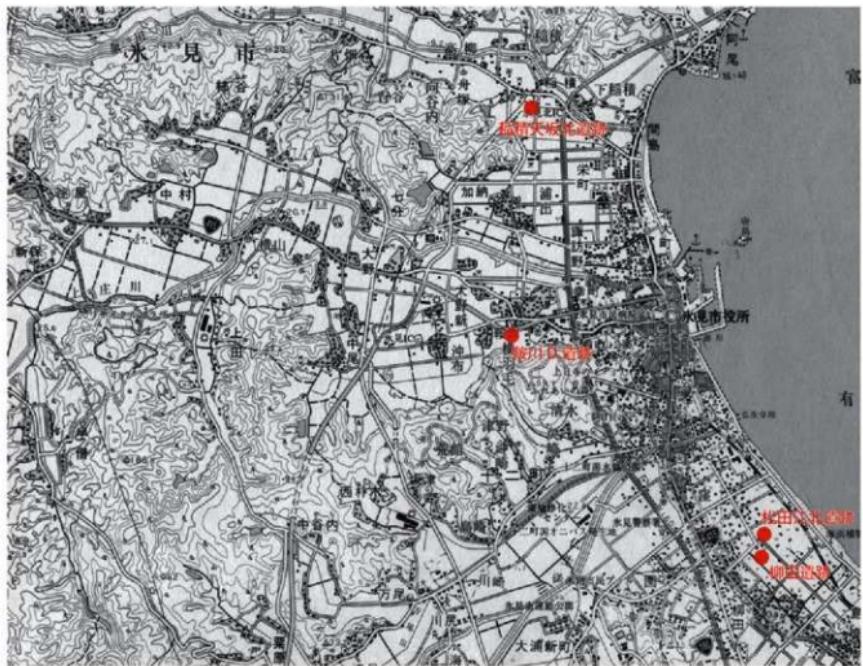
平成24年度の埋蔵文化財発掘調査事業では、氷見市内の道路建設事業に関わる氷見市建設農林部建設課所管の事業1件、民間の開発行為2件、個人住宅建設1件の計4件4遺跡の試掘調査を実施した。なお、試掘調査の実施にあたり、国庫と県費の補助を受けた。

試掘調査は、平成24年の9月から12月まで、随時実施していく。9月26日には、稲積天坂北遺跡で個人住宅の建設に先立つ試掘調査を実施した。翌9月27日には、鞍川D遺跡でドラッグストア建設に先立つ試掘調査を実施した。なお、鞍川D遺跡の試掘調査にあたっては、開発者である吉田道路株式会社より重機およびオペレーターの提供を受け、担当者の立ち会いのもと調査を行った。10月31日から11月1日の2日間には、柳田遺跡で氷見市建設農林部建設課所管の都市計画道路氷見伏木線建設事業に先立つ試掘調査を実施した。この調査は、昨年度実施した柳田南遺跡の試掘調査に続くもので、同事業に先立つ試掘調査としては、2か年目、2遺跡目となる。12月5日には、松田江北遺跡で分譲宅地造成工事に先立つ試掘調査を実施した。調査対象地は、先に実施した柳田遺跡の試掘調査対象地に近接する場所である。

整理作業は、年が明けた平成25年1月から着手し、遺物の洗浄・注記・実測等を実施した。また、並行して本文の執筆、図面トレイス作業、遺物写真の撮影等を実施した。

このほか、平成25年1月から3月にかけて、能越自動車道灘浦IC北側の工事現場で平成24年12月に不時発見された宇波ヨシノヤ中世墓群（仮称）について、測量調査を実施した。こちらは次年度に本発掘調査の実施を予定している。

また昨年度より、同じく国庫と県費の補助を受け、氷見市内遺跡詳細分布調査事業に伴う小窪庵寺総合調査事業を開始している。事業は、平成23年度から5か年の計画で、今年度はその2か年目として、氷見市小窪に所在する小窪庵寺跡とその周辺部の測量調査を実施した。この小窪庵寺総合調査事業の成果については最終年度となる平成27年度に取りまとめを行う予定である。



第1図 調査対象地位置図 (S=1 / 50,000)

第2章 個人住宅建設に先立つ稲積天坂北遺跡試掘調査

第1節 調査対象地

(1) 地理的環境

稲積地区は、余川川の下流域に所在する。

余川川は碁石ヶ峰近くの県境尾根を水源とし、約13.5kmで富山湾に注ぐ河川で、流域は余川谷と呼ばれる。

稲積天坂北遺跡は、余川川下流右岸、標高約7mの地点に立地する。遺跡北側を流れる余川川は、かつて稲積河とも間島川とも呼ばれ、氾濫を繰り返す川だったといわれる（児島1978）。また余川川の南側には、市内では長さ、流域面積とも最大の川である上庄川が流れる。上庄川の下流左岸には加納潟と仮称される潟湖が広がっていたと推測されているが、この加納潟は余川川下流域まで広がっていた可能性があり、そうであれば稲積天坂北遺跡は加納潟のほとりに立地していることになる（水見市1999・2000）。

調査対象地は、能越自動車道水見北ICに隣接する水田地帯で、周辺では近年宅地の造成が進んでいる。

(2) 遺跡の概要

稲積天坂北遺跡は、平成15年度実施の能越自動車道建設に先立つ分布調査で発見された遺跡である。その後、水見北ICの建設に先立って、富山県文化振興財団による本発掘調査が実施された。本発掘調査では、8世紀代の掘立柱建物が検出された。出土遺物は須恵器を主体とし、墨書き器や円面鏡など多種にわたる（財團法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2007ab）。

稲積天坂北遺跡の南西に位置する稲積天坂遺跡でも、能越自動車道建設に先立つ本発掘調査が実施されており、弥生・古代・中世・近世の各時代の遺物・遺構が確認された（財團法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2007ab・2008）。また、東側に隣接する稲積川口遺跡では、水見北ICのアクセス道路建設に先立つ本発掘調査が実施されている。この調査では、7世紀前半の旧余川川とみられる河道が検出され、当該期の須恵器や内黒土師器とともに木製農具の馬鍬が出土した。そのほか、8世紀後半から9世紀の遺物・遺構も確認されている（水見市教委 2009）。

第2節 調査の概要

調査の概要は以下のとおりである。

所 在 地：水見市稲積

調査対象面積：500m²

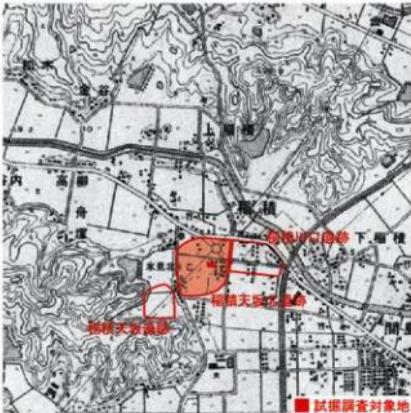
発 掘 調 査：35m²

調査主 体：水見市教育委員会

調査担当者：水見市教育委員会生涯学習・スポーツ課主任学芸員 廣瀬 直樹

調査期 間：平成24年9月26日（のべ1日）

調査原 因：個人住宅（木造2階建）建設



第2図 稲積天坂北遺跡位置図 (S = 1/25,000)

第3節 調査結果（第3図）

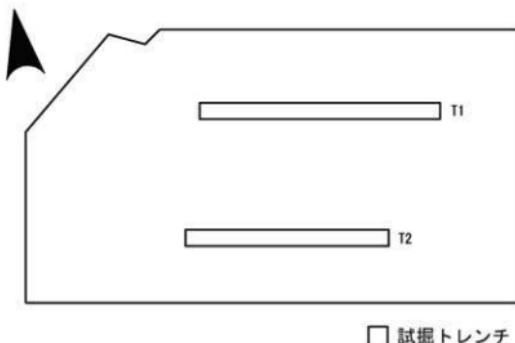
調査対象地（敷地面積500m²）のうち、住宅建設（床面積71.22m²分）が計画されている東側部分を中心に、東西方向の試掘トレンチ2本を設定し、機械力および人力によって掘削を行った。発掘面積は35m²である。調査では、試掘トレンチT1のII層で年代不明の土器細片が出土したほか、T2から中世珠洲焼が1点出土した（図版15-1）。遺物は以上2点のみで、遺構も検出されなかった。基本層序を第1表に示した。

T2から出土した中世珠洲焼を第4図に図示した。擂鉢の底部破片で、底径9.2cmを測る。焼成はやや不良である。内面に2cm幅に8目の卸目を施す。底外面には静止糸切り痕が残るが、磨滅が著しい。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期におさまるものと考える。

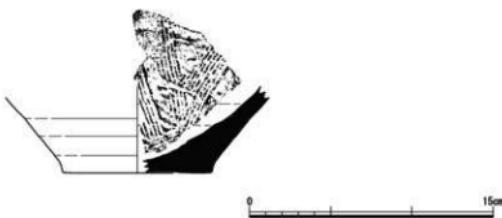
若干ながら遺物は確認できたものの、遺構は確認されなかったことから、工事による影響は軽微であり、着工に問題ないと判断した。

第1表 稲積天坂北遺跡 基本層序

I層	耕作土	25～30cm	灰黄褐色粘質土
II層		35～40cm	褐灰色粘質土（土器細片出土）
III層		10～15cm	灰色粘質土
IV層		20～45cm	黄灰色粘質土
V層	地山		黄灰色粘質土



第3図 稲積天坂北遺跡試掘トレンチ位置図 (S = 1 / 300)



第4図 稲積天坂北遺跡遺物実測図 (S = 1 / 3)

第3章 ドラッグストア建設に先立つ鞍川D遺跡試掘調査

第1節 調査対象地

(1) 地理的環境

調査対象である鞍川地区は、氷見市のはば中央を流れる上庄川下流南岸に位置する。河畔に平野が開け、背後には丘陵山地が連なる。上庄川は、氷見市南西端の大釜山(501.7m)に発し、約22kmで富山湾に注ぐ河川であり、氷見市では長さ・流域面積ともに最大である。

鞍川地区の北側に当たる上庄川下流左岸の加納地区の平野には、弥生時代から古代にかけて加納潟(仮称)という潟湖が所在したと推定される。加納潟は南北約1km、東西約0.5kmと推定され、さらに北側の余川川下流域に広がる可能性がある(氷見市1999・2000)。

鞍川地区では昭和30年代に土地改良が実施され、周辺には整然とした水田が広がっている。また、鞍川D遺跡の北側には、氷見北ICのアクセス道路として整備された一般国道415号(通称、鞍川バイパス)が横断し、西側は、平成23年度に開業した金沢医科大学氷見市民病院の敷地となる。

今回の試掘調査の対象地は鞍川D遺跡の東側、標高約53mに位置し、現況は水田である。

(2) 遺跡の概要

鞍川D遺跡は、平成6年度の氷見市教育委員会の分布調査で発見された遺跡である。分布調査では、須恵器2破片、珠洲焼2破片、瀬戸1破片、越中瀬戸1破片、近世陶器1破片などが採集されており、古代・中世主体の遺跡と推定された。これまで、一般国道415号(鞍川バイパス)建設に先立つ試掘調査・本発掘調査と、金沢医科大学氷見市民病院建設および市道鞍川靈峰線バイパス整備事業に先立つ試掘調査を実施している。

一般国道415号(鞍川バイパス)建設に先立つ調査は、平成13年度に試掘調査、平成15年度に本発掘調査を実施した。調査では、井戸跡、流路、溝、土坑などの遺構が検出された。遺物としては珠洲焼や土師器皿、青磁、白磁、山茶碗など13世紀前半を中心に、12世紀後半から13世紀代いっぽいの遺物が出土している。建物跡等は見つかっていないが、いずれも13世紀前半の構築と考えられる井戸跡が3基検出された。調査区の外側に向けて平安時代末から鎌倉時代始め頃に営まれた集落が広がっていると推測される。また、検出された3基の井戸跡のうち、1基では丸木舟を転用した井戸欄が用いられていた(氷見市教委2006)。

平成21年度には、氷見市民病院建設事業に先立つ試掘調査を実施した。調査では、対象地の広い範囲で遺構・遺物を確認した。検出した遺構は溝・土坑・ピット等である。出土遺物は、中世珠洲焼・中世土師器等、12世紀後半から13世紀前半が中心となる。ただし、遺構の多くは、昭和30年代に実施された土地改良により上部が削平されているものと考えられ、遺存状態は良くない(氷見市教委2010a)。

平成23年度には、市道鞍川靈峰線バイパス整備事業に先立つ試掘調査を実施した。調査では、弥生土器・中世珠洲焼・中世青磁・時期不明土器片・鉄滓等が出土したが、遺構は確認できなかった(氷見市教委2012a)。

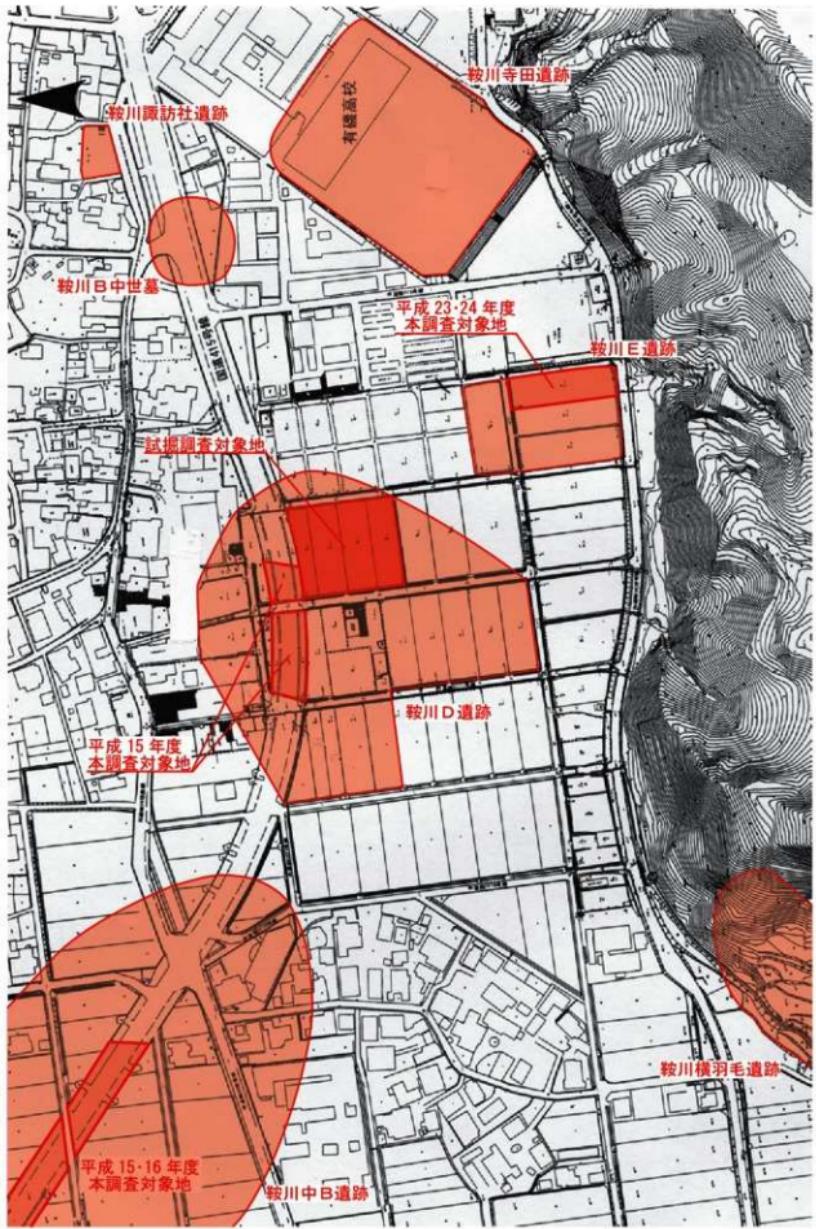
以上、鞍川D遺跡は、12世紀後半から13世紀代を主体とする遺跡である。遺構の分布状況からすると、遺跡の東側からその北側にかけて集落が広がっているものと考えられる。

第2節 調査の概要(第5図)

平成23年9月に金沢医科大学氷見市民病院がオープンしたことにより、市民病院の周辺に調剤薬局やコンビニエンスストア等が相次いで建設された。今回調査を実施したドラッグストアの建設も、そうした状況のもと計画されたものである。

平成23年度、鞍川D遺跡の範囲内、平成15年度に鞍川バイパスの建設に先立つ本発掘調査を実施した調査対象地の隣接地においてドラッグストアの建設が計画されていることが明らかとなった。そのため、開発者である吉田道路株式会社と遺跡の保護協議を行った。当該地は、先述したように平成15年度の本発掘調査対象地と隣接しており、本発掘調査が必要となる可能性が非常に高いことを伝えたが、それを見込んだ上で開発を続行するとの回答であったため、試掘調査の実施に向けて動き出した。

試掘調査は平成24年度の実施が決まったが、当該地は水田として使われているため、調査は秋の収穫



第5図 鞍川D遺跡と周辺の遺跡 (S = 1 / 3,000)

後になった。なお、試掘調査の実施にあたり、吉田道路株式会社より、重機およびオペレーターの提供を受けた。

事業対象地のうち、アスファルト舗装となる駐車場については掘削を伴わず、また擁壁を設置する敷地外周については工事立会とすることで、試掘調査は不要と判断した。そのため試掘調査は、事業予定地 3,420m²のうちドラッグストア店舗が建設される 825m²について対象とした。ただし、事業予定地は、一般国道 415 号（鞍川バイパス）の建設に先立ち本発掘調査を実施した範囲と北西側で接している一方、南側は市道鞍川塩峰線バイパスに先立つ試掘調査で本調査発掘調査の対象外とされた地点に隣接する。そのため、遺構が残存する可能性が低い南側へ建物の建設位置を変更し、本発掘調査の対象面積を減らすことも考慮し、建設予定地西側と南側に試掘トレンチを追加して調査を行った。

調査の概要は以下のとおりである。

所 在 地：氷見市鞍川

調査対象面積：3,420m²

発 掘 調 査：140m²

調 査 主 体：氷見市教育委員会

調査担当者：氷見市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 主任学芸員 廣瀬 直樹

調 査 期 間：平成 24 年 9 月 27 日（のべ 1 日）

調 査 原 因：ドラッグストア（鉄骨造平屋建）建設

第3節 調査結果

（1）調査の状況（第6図）

試掘調査では、試掘トレンチを 12 基設定し、機械力で掘削を行った。発掘面積は 140m²である。

調査区北側に東西方向に掘削した試掘トレンチ T1～3 および調査区北西側に南北方向に掘削した試掘トレンチ T4 で遺構を検出した。遺構は土坑・溝・小穴で、地表面より 50～60cm で検出された。また、調査区中央に東西方向に掘削した試掘トレンチ T6・7 では、トレンチの東側で土坑・溝が検出された。さらに調査区南側に試掘トレンチ T8・11・12、調査区中央西よりに試掘トレンチ T9・10 を掘削したが、埴輪穴等が検出されたものの、遺構は検出されなかった。出土遺物は、中世珠洲焼、中世土師器等があり、特に T6 で検出された溝と見られる遺構の埋土から、中世珠洲焼片がまとまって出土した。

基本層序を第2表に示した。

第2表 鞍川D遺跡 基本層序

I 层	耕作土	20cm	灰黄褐色砂質土
II 层		30～40cm	褐色粘質土
III 层	地山		黄褐色粘質土　かたくしまる
	遺構埋土		黒褐色粘質土　炭化物含む

（2）出土遺物（第7図、図版14）

調査では、中世土師器 1 点、中世珠洲焼 10 点、近世磁器 3 点、あわせて 14 点が出土した。そのうち中世珠洲焼 9 点を図示した。

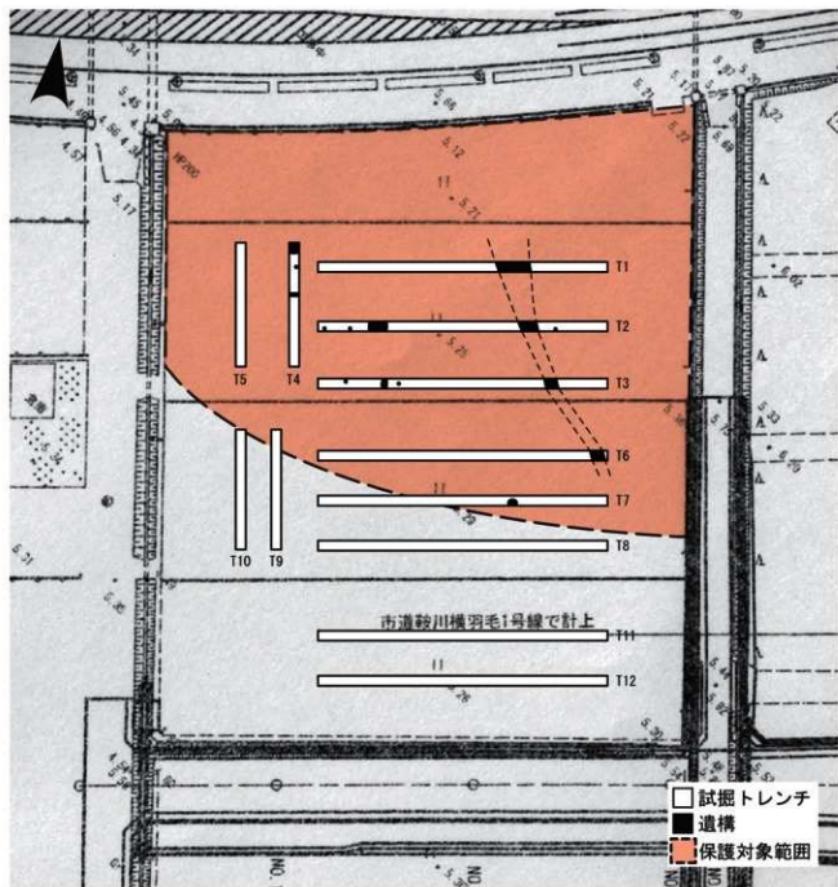
1 は、T1 で出土した壺甕類の体部破片である。外面に平行叩き痕、内面に當て具痕が残る。

2 は、T2 で出土した擂鉢の底部破片である。底径 13.0cm を測り、底外面に静止糸切り痕が残る。内面に 1.7cm 幅に 10 目の鉤目を施す。吉岡編年のⅡ～Ⅲ期におさまるものと考える。

3 は、T3 で検出された溝と見られる遺構から出土した壺甕類の体部破片である。外面は平行叩き痕が残り、内面は當て具痕を指でなでる。

4～9 は、T6 の東側で検出した溝と見られる遺構からまとめて出土したものである。4 は、壺甕類の体部破片である。外面に平行叩き痕が残り、内面は當て具痕に横方向のナデを施す。5 は、叩き壺の体部破片で、外面に綾杉状の平行叩き痕、内面に當て具痕が残る。焼成はやや不良である。吉岡編年で

III～IV期か。6は、壺の底部破片である。底径は10.7cmを測り、底外面に静止糸切り痕が残る。ロクロ成形で、内面は指ナデを施すが仕上げは粗い。7～9は壺の底部破片である。7は底径13.0cmを測る。焼成はやや不良であり、軟質で灰白色を呈する。8は、底径11.6cmを測る。焼成はやや不良で、外一部が赤褐色を呈する。底外面に静止糸切り痕が残る。9は底径9.0cmを測る。焼成はやや不良であり、軟質で灰白色を呈する。



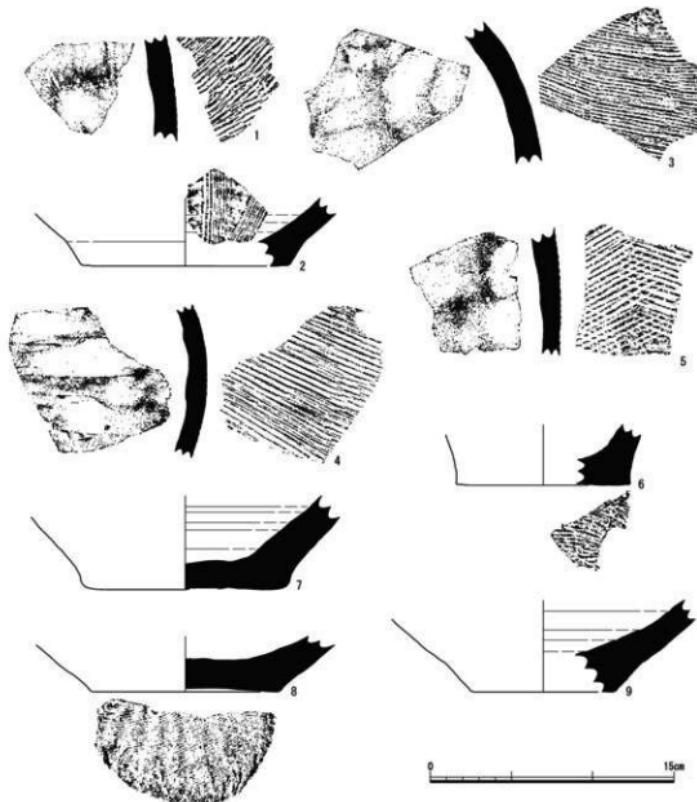
第6図 鞍川D遺跡試掘トレンチ位置図 (S = 1 / 500)

(3) まとめ

試掘調査の結果、調査対象地の北西側から中央部にかけて遺構・遺物が確認された。出土した遺物は中世珠洲焼を中心に、中世土師器、近世磁器が少量ある。年代が明らかとなるものでは、吉岡編年のⅡ～Ⅳ期のものがある。平成15年度に近接地で実施した本発掘調査では、出土した珠洲焼はⅠ～Ⅱ期が大半を占め、Ⅲ期が少量確認されている。またⅣ～Ⅵ期のものはほとんどなかった。このように出土遺物の年代には若干のずれはあるが、今回確認された遺構は、おおむね平成15年度本発掘調査で確認された集落と一連のものと推測される。

なお、調査区南側には遺構の広がりは確認されなかった。これは、平成23年度に調査区南側隣接地において実施した市道鞍川靈峰線バイパス整備事業に先立つ試掘調査の結果とも合致する。

さて、今回の試掘調査により、調査区の北側については、開発行為に先立ち本発掘調査が必要と判断した。現在、開発者である吉田道路株式会社と協議を重ねているところである。基本的には建物の建設位置のみ本発掘調査の対象となるため、建設位置をずらすことでの本発掘調査の対象面積を極力減らすよう、設計変更を含めて検討を統一している。



第7図 鞍川D遺跡遺物実測図 (S = 1 / 3)

第4章 都市計画道路水見伏木線建設に先立つ柳田遺跡試掘調査

第1節 調査対象地

(1) 地理的環境

調査対象の柳田地区は、水見市南東部に立地する。東は富山湾に臨み、西は丘陵が連なる。海岸付近は砂浜と畑地が広がり、西方の丘陵付近には水田地帯がある。地区内を国道160号と国道415号が横断する。

柳田および北側の窪、南側の島尾から高岡市太田にかけての海沿いの砂浜・畑地は、かつて布勢水海と呼ばれた潟湖（現在の十二町潟）を海から隔てる砂州が発達してできた砂丘地帯である。また、西側の丘陵部と砂丘地帯との間は、平安時代以前は布勢水海の一部だったとされる。砂丘地帯は、かつては起伏のある砂丘列が幾重にも連なり、中にはクロマツの林が広がっていた、という。こうした松林は近世・元禄年間（1688～1704）以降に少しずつ開墾され、田畑に変えられていったとされ、現在は広大な平地が広がる。近世に開墾されて以降、主に畑地として利用されてきた砂丘部であるが、近年は宅地化が進んでいる（水見市1999・2000・2006）。

調査対象地は、柳田遺跡の北東端、標高約5.7mに位置し、都市計画道路水見伏木線建設事業による用地買収以前は宅地・畑地として利用されていた。

(2) 遺跡の概要

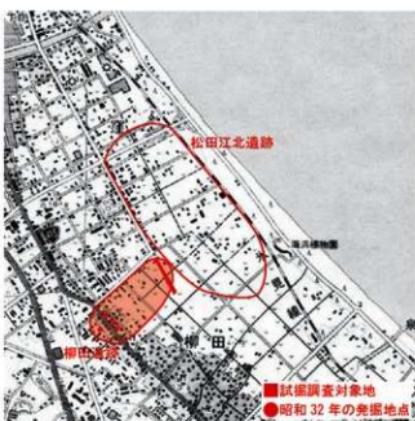
柳田遺跡は、昭和初年に発見された遺跡である。昭和32年には、耕作中に土器が出土し、同年8月・9月・11月の3回にわたり、水見高等学校歴史クラブが小規模な発掘調査を実施している（水見市2002）。

窪から柳田、島尾にかけての砂丘地帯では、広範囲で遺物の散布が確認でき、窪北遺跡・松田江北遺跡・窪シムラ遺跡・柳田遺跡・柳田南遺跡・島尾遺跡・島尾北遺跡が所在する。ほとんどの遺跡では縄文から近世にかけての遺物の散布がみられるものの、明確な遺構の検出例はない。一方、発掘調査によって、多くの遺物が出土した例としてあげられるのが柳田遺跡である。先述したように、柳田遺跡では昭和32年に水見高等学校歴史クラブの手によって小規模ではあるが発掘調査が実施されている。地表より基盤の層まで85～105cmで、遺構は未確認であったが、最下部に良好な包含層が確認された（写真1・2）。縄文・弥生・古墳・奈良・平安の各時代の遺物が出土しており、なかでも弥生時代後期前半と古墳時代（5世紀中頃～6世紀初め）は多様な遺物が出土し、集落の存在が推測される（水見市2002）。

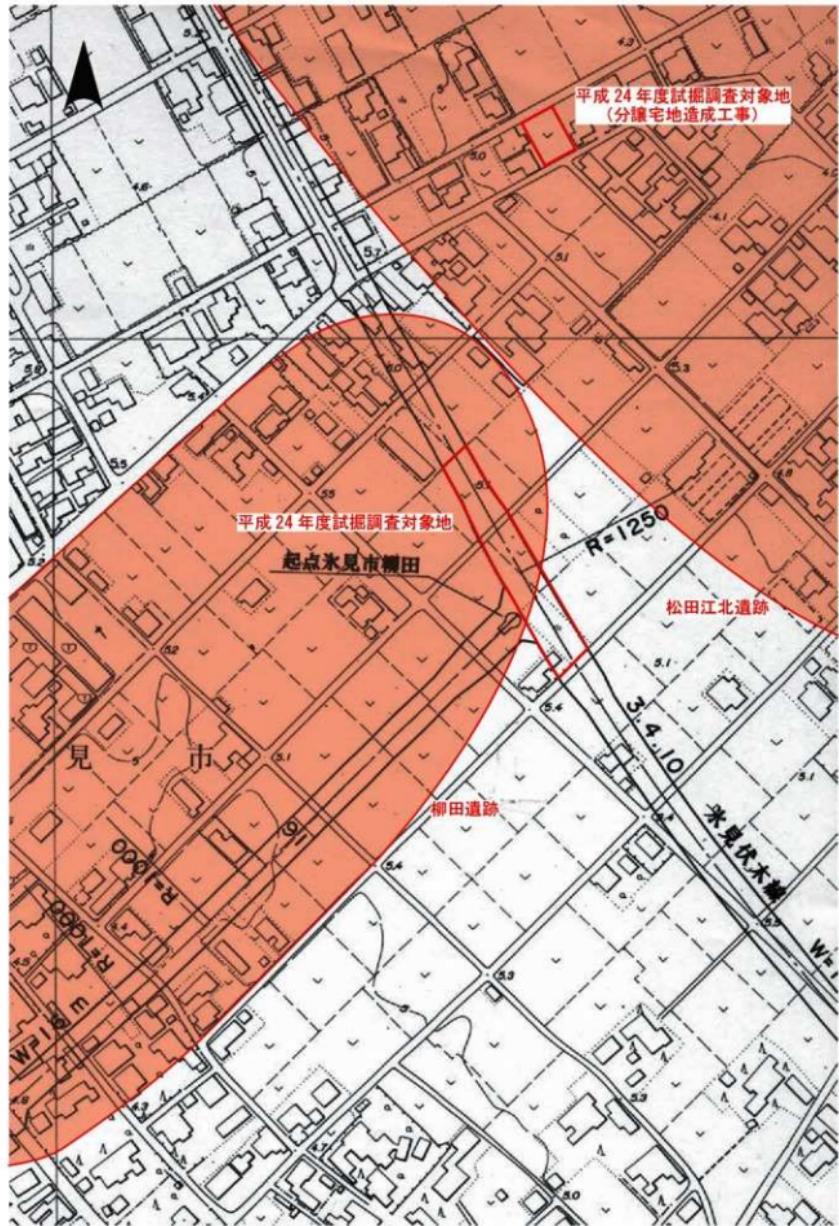
また、柳田地区西側の丘陵には、日本海側最大の前方後方墳、柳田布尾山古墳（国指定史跡）が所在する。柳田布尾山古墳は、全長107.5mを測り、古墳時代前期前半の築造と考えられている。その他、周辺の主な遺跡には、古墳時代後期の須恵器窯跡である園カンデ窯跡、一字一石経が出土したと伝えられる窪経塚がある。

第2節 調査の概要（第9図）

都市計画道路水見伏木線は、市の南部地区（窪・柳田）を南北に縱断する市街地中心部への幹線道路であり、国道415号のバイパス路線として高岡市へのアクセス機能を有する重要な道路である。また、当地区においては住宅化の進行が著しいにもかかわらず、地域内道路が狭隘なため、交通渋滞や住居環境の劣化が著しい。このため、当路線を整備することにより、地区内に発生する交通渋滞の緩和と住居環境



第8図 柳田遺跡位置図 ($S = 1 / 25,000$)



第9図 柳田遺跡調査対象地位置図 ($S = 1 / 2,500$)

境の整備、地域の活性化を図ること目的に計画された。

当路線の北側には柳田遺跡、南側には柳田南遺跡が立地しており、用地買収後の試掘調査が必要であった。なお、事業計画地南側より順次進められている用地買収によって取得された用地には、路線を区画するための側溝工事が施工された。施工は、柳田南遺跡の範囲内の一部を対象とし、平成21年度と平成22年度に実施された。この施工については、当路線の試掘調査事業に先行するものであることと、側溝工事の範囲自体は狭小なものであったため、工事立会で対応した。

平成23年度には、柳田南遺跡の試掘調査を実施した。柳田南遺跡では、これまでアパート建設や個人住宅の建設に伴う試掘調査を実施してきたが、砂層が厚く堆積しており、明確な遺構は検出されていない。また、遺物は古代から近世にかけての小片が確認されるのみであった。氷見伏木線建設に先立つ試掘調査においても、古代須恵器・古代土師器・近世陶磁器等9点が出土したものの、遺構は検出されず、本発掘調査は不要と判断した（氷見市教委2012a）。

平成24年度には、柳田南遺跡に続き路線北側の柳田遺跡の試掘調査を実施することになった。試掘調査にあたり、路線北側については用地買収の前に民家が建築されていた区画と既存アパートの駐車場部分であるため、調査対象から除外した。除外した箇所については、今回の試掘調査の結果を見て判断することとした。

調査の概要は以下のとおりである。

所 在 地：氷見市柳田

調査対象面積：1886.88m²

発 掘 調 査：160.8m²

調 査 主 体：氷見市教育委員会

調査担当者：氷見市教育委員会 生涯学習・スポーツ課主任学芸員 廣瀬 直樹

調 査 期 間：平成24年10月31日～11月1日（のべ2日）

調 査 原 因：道路改築（都市計画道路氷見伏木線）

第3節 調査結果（第10図）

試掘調査では、計画路線と平行方向の試掘トレチを6基設定し、機械力で掘削を行った。発掘面積は160.8m²である。基本層序を第3表に示した。

T3～T5の北側では、I層直下に掘り込まれた長方形の土坑ないし溝状の遺構が検出され、また同一平面上で、遺構に平行に並ぶ縦架穴を検出した。これらは、近辺での耕作に伴うものと考えられる。そのほかの遺構は確認できなかった。

遺物は、T1のⅢ層中から弥生～古墳時代の土器片9点、古代須恵器2点、あわせて11点が出土した（図版15-2）。そのほか、近現代の磁器類の散布が確認された。

昨年度実施した氷見伏木線建設に先立つ柳田南遺跡の試掘調査では、砂層が厚く堆積しており、明確な遺構は検出されなかった。また、遺物は古代から近世にかけての小片が確認されるのみであった。今回実施した柳田遺跡の試掘調査においてもほぼ同様の結果となり、本発掘調査は不要と判断した。

柳田遺跡や柳田南遺跡、松田江北遺跡など雀・柳田両地区の砂丘地帯に分布する遺跡の多くは、砂層が厚く堆積しており、広範囲に縄文時代から近世の遺物が散布するに対し、明確な遺構や遺物包含層は確認されていない。元禄年間（1688～1704）以降の開墾以前のこの地域は、起伏のある砂丘列が幾重にも連なり、中にはクロマツの林が広がっていたとされる。元禄年間以前に何らかの土地利用があったとしても、開墾によってすでに削平されている可能性が高い。

その一方、柳田遺跡では、昭和32年に氷見高等学校歴史クラブが実施した発掘調査で良好な遺物包含層が確認されており、特に遺物の出土量が多い弥生時代後期前半と古墳時代（5世紀中頃～6世紀初め）については、近辺に集落の存在が予測されている。だが、今回の調査では遺構は確認されず、遺物もごくわずかであった。図版2に示した空中写真を見ても、砂丘地帯である遺跡北東側に対し、南西側はまた違った様相を見出せる。本遺跡の主体は、やはり昭和32年の調査区がある遺跡の南西側である可能性が高い。

今回の調査で、予定された氷見伏木線建設に先立つ試掘調査は終了となった。事業地全体に、明確な

遺構は確認できず、遺物の出土も少なかったため、本発掘調査には至らなかった。なお、やむを得ず調査対象から除外した箇所もあったため、今後の工事計画を注視していきたいと考えている。

第3表 柳田遺跡 基本層序

I層	耕作土	15 ~ 45cm	灰黄褐色砂質土
II層		0 ~ 20cm	にぶい黄褐色砂
III層		20 ~ 35cm	黒褐色砂質土（古代須恵器等出土）
IV層		0 ~ 25cm	にぶい黄橙色砂 かたくしまる
V層	地山	25cm ~	明黄褐色砂 かたくしまる
VI層	地山		明黄褐色砂 かたくしまる。V層より青み強く、やや粗い



第10図 柳田遺跡試掘トレンチ位置図 (S = 1 / 1,500)



写真1 氷見高等学校歴史クラブの発掘調査（昭和32年8月）



写真2 出土物（昭和32年8月2日）

第5章 分譲宅地造成工事に先立つ松田江北遺跡試掘調査

第1節 調査対象地

(1) 地理的環境

調査対象の窪地区は、水見市南東部に立地する。東は富山湾に臨み、地区内を国道160号と国道415号が横断する。海岸付近は砂浜と畑地が広がり、西方には水田地帯がある。また、地区的北西方向には、かつて布勢水海と呼ばれ奈良時代には越中国守大伴家持が舟で遊覧した潟湖、十二町潟がその名残を留めている。窪地区の北側を流れ海に注ぐ現在の仏生寺川下流部分は、明治2年に完成した十二町潟の吐川、窪の新川（八幡疊水）である。

調査対象地は、松田江北遺跡の中央西寄りに位置し、現況は畑である。

(2) 遺跡の概要

松田江北遺跡は、海岸沿いの砂丘上、標高約4mに立地する。平成5年度に水見市教育委員会が実施した分布調査で発見された遺跡である。水見市窪から柳田にかけて南北1km、東西500mの広い範囲に縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の遺物が散布している（水見市2002）。

これまで、遺跡範囲内の都市計画道路環状南線建設、一般住宅及び集合住宅建設等に先立つ試掘調査を実施してきたが、砂層が厚く堆積し、また近世以降の畑作による攪乱を受けていることから、弥生時代から近世にいたる遺物の散布が確認されるもの、本発掘調査に至った例はない。

第2節 調査の概要

調査の概要是以下のとおりである。

所 在 地：水見市窪

調査対象面積：462m²

発 挖 調 査：45m²

調 査 主 体：水見市教育委員会

調査担当者：水見市教育委員会生涯学習・スポーツ課主任学芸員 廣瀬 直樹

調 査 期 間：平成24年12月5日（のべ1日）

調 査 原 因：分譲宅地造成工事



第11図 松田江北遺跡位置 (S = 1 / 25,000)

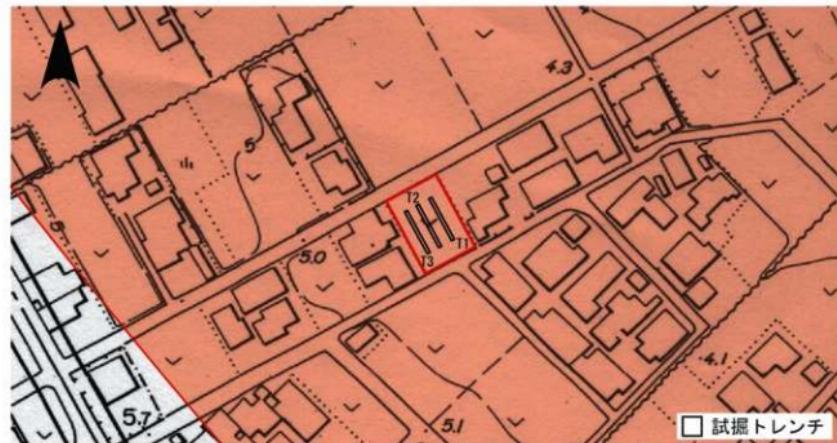
第3節 調査結果（第12図）

試掘調査では、調査対象地（462m²）に南北方向の試掘トレント3基を設定し、人力にて掘削を行った。発掘面積は45m²である。基本層序を第4表に示した。調査では、I層の耕作土直下で枠架穴を検出したほかには遺構ではなく、遺物も近現代の陶磁器片を表採したのみであった。III・IV層は純砂層で、地山と判断した。また深掘りを行ったT1の北側では、地表面から約80cmで湧水を確認した。

遺構・遺物ともに近現代以降のもののみであり、周辺は近世以降の開拓による削平・攪乱を受けている可能性が高い。よって工事による影響は軽微であり、着工に問題ないと判断した。

第4表 松田江北遺跡 基本層序 (T1 北壁)

I層	耕作土	30cm	灰黄褐色砂
II層		10cm	にぶい黄褐色砂
III層	地山	10cm	褐色砂（純砂層）
IV層	地山		にぶい黄褐色砂（純砂層） 地表面から約80cmで湧水あり



第12図 松田江北遺跡試掘トレンチ位置図 ($S = 1 / 1,500$)

引用・参考文献

- 茨木武義 1976『柳田百年誌』
- 庄村誌編纂委員会 1959『庄村のあゆみ』
- 児島清文 1978『第二部 郷土のあゆみ』『稲積教育百年 一教育と歴史一』稲積教育百年史編さん委員会 稲積小学校創校百周年記念事業協賛会
- 財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2007a『平成18年度 埋蔵文化財年報』
- 財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2007b『とやま発掘だより 一平成18年度 発掘調査速報一』
- 財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2008『平成19年度 埋蔵文化財年報』
- 氷見市 1963『氷見市史』
- 氷見市 1999『氷見市史』9 資料編 7 自然環境
- 氷見市 2000『氷見市史』6 資料編 4 民俗、神社・寺院
- 氷見市 2002『氷見市史』7 資料編 5 考古
- 氷見市 2006『氷見市史』I 通史編 1 古代・中世・近世
- 氷見市教育委員会 2005『鞍川中A遺跡 鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告Ⅰ』氷見市埋蔵文化財調査報告第41冊
- 氷見市教育委員会 2006a『鞍川D遺跡 鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告Ⅱ』氷見市埋蔵文化財調査報告第44冊
- 氷見市教育委員会 2006b『鞍川中B遺跡 鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告Ⅲ』氷見市埋蔵文化財調査報告第45冊
- 氷見市教育委員会 2008『氷見市遺跡地図〔第3版〕【改訂版】』氷見市埋蔵文化財調査報告第51冊
- 氷見市教育委員会 2009『稲積川口遺跡 一般県道鹿西氷見線地方特定道路事業に伴う発掘調査報告』氷見市埋蔵文化財調査報告第52冊
- 氷見市教育委員会 2010a『金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う試掘調査概要 鞍川D遺跡 鞍川中B遺跡』氷見市埋蔵文化財調査報告第55冊
- 氷見市教育委員会 2010b『鞍川中B遺跡Ⅱ 金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う発掘調査報告』氷見市埋蔵文化財調査報告第57冊
- 氷見市教育委員会 2012a『氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅱ 谷屋上ノ江遺跡 鞍川E遺跡 鞍川D遺跡 柳田南遺跡』氷見市埋蔵文化財調査報告第59冊
- 氷見市教育委員会 2012b『鞍川E遺跡Ⅰ 市道鞍川靈峰線バイパス建設事業に伴う発掘調査報告（1）』氷見市埋蔵文化財調査報告第60冊
- 氷見市教育委員会 2012c『鞍川E遺跡Ⅱ 市道鞍川靈峰線バイパス建設事業に伴う発掘調査報告（2）』氷見市埋蔵文化財調査報告第61冊
- 氷見市立博物館 2006『特別展 竹里山の謎にせまる 一山城・寺院・鞍川氏一』
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

写 真 図 版



図版 1 空中写真 (1) (1947 年米軍撮影) 国土地理院
稚穂天板北遺跡 (上)・鞍川D遺跡 (下)



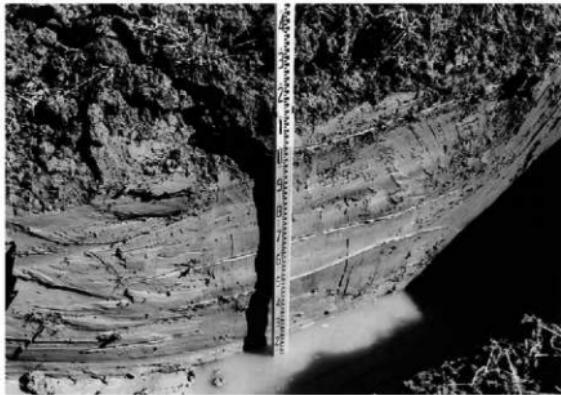
図版2 空中写真(2) (1947年米軍撮影) 国土地理院
柳田遺跡(左)・松田江北遺跡(右)



1. 調査区近景（西から）



2.T1 実掘状況



3.T1 土層断面

図版 3 稲積天板北遺跡試掘調査（1）



1.T2 完掘状況



2.T2 土層断面



3. 作業風景

図版 4 稲積天坂北遺跡試掘調査（2）



1. 調査区遠景
(西から)
平成 21 年 5 月撮影



2. 調査区遠景
(東から)
平成 23 年 12 月撮影



1. 調査区近景（南東から）



2.T1 土層断面



3.T2 完掘状況

図版 6 鞍川D遺跡試掘調査（2）



1.T3 遺構検出状況



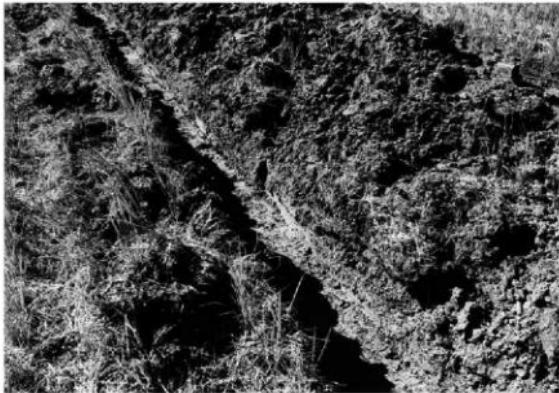
2.T6 遺構検出状況



3. T7 遺構検出状況



1.T9 完掘状況



2.T11 完掘状況



3. 作業風景

図版 8 鞍川川口遺跡試掘調査（4）



1. 調査区近景（南東から）



2.T1 完掘状況



3.T1 土層断面



1.T3 土層断面



2.T4 深掘り土層断面



3.T4 溝状遺構検出状況

図版 10 柳田遺跡試掘調査（2）



1.T6 土層断面



2. 作業風景（1）



3. 作業風景（2）

図版 11 柳田遺跡試掘調査（3）



1. 調査区近景（北から）



2.T1 完掘状況



2.T1 土層断面

図版12 松田江北遺跡試掘調査（1）



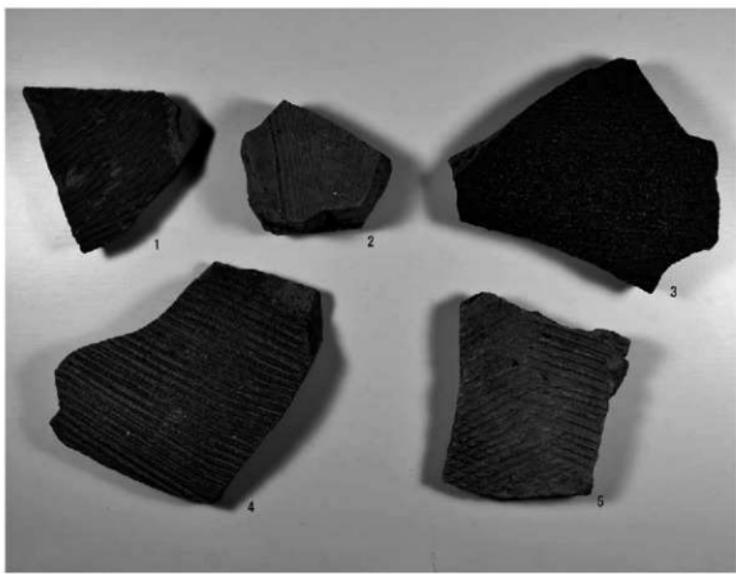
1.T2 完掘状況



2.T3 完掘状況



3.作業風景



1. 鞍川D遺跡（1）（中世珠洲焼）



2. 鞍川D遺跡（2）（中世珠洲焼）

図版14 遺物写真（1）



1. 榛積天坂北遺跡（中世珠州焼・土器細片）



2. 柳田遺跡（11点出土したうちの8点。右下2点は古代須恵器、それ以外は弥生～古墳時代の土器片）

報告書抄録

平成 25 年 3 月 19 日印刷
平成 25 年 3 月 22 日発行

水見市埋蔵文化財調査報告第 62 冊

水見市内遺跡発掘調査概報Ⅲ

稲積天板北遺跡 鞍川 D 遺跡 柳田遺跡 松田江北遺跡

編集・発行 水見市教育委員会

〒 935-0016

富山県水見市本町 4 番 9 号

☎ 0766 (74) 8215

印 刷 菊華堂印刷株式会社

